

## 職業性接触皮膚炎

高山 かおる

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

皮膚科学分野

職業性疾患の中で皮膚疾患の占める割合は職業性疾患の中で最も高い。しかし、全身性の疾患に比べ、休業を要することの少ない皮膚疾患は、その有害事象の報告数が少なく、また軽視されがちである。実際には色素沈着など美容の問題、かゆみによる不眠など生活の質の問題などのほか、皮膚症状のために作業効率がおちることや、飲食業や理・美容師、医療従事者などにおいては、皮膚炎のために十分な衛生が保てないなどのさまざまな問題も出てくる。

職業性皮膚疾患のなかで接触皮膚炎は9割を占めるといわれている。問題になる職業性接触皮膚炎の原因化学物質は多岐にわたるが、ニッケル、コバルト、クロムなどの金属、エポキシ樹脂やアクリル樹脂などの合成樹脂、

界面活性剤、抗菌薬、植物などによるものが問題となることが多い。

接触皮膚炎の治療は原因を特定し除去することであるが、職業性の場合には原因の除去がむずかしいことも多い。職業性接触皮膚炎の病態や社会的問題、予防法について考えたい。